

令和5年度 第45回 全国伝統的建造物群保存地区協議会総会・研修会 概報

- 一、日 時：令和5年5月22日(月)～24日(水)
- 二、場 所：丹波篠山市 田園交響ホールほか
- 三、参加者：68市町村約330名参加
※うち 首長など参加22市町村

四、内容

I 総会

- 1. 開会
- 2. 会長挨拶
金沢市 村山 卓 市長
- 3. 開催市歓迎のことば
丹波篠山市 酒井 隆明 市長
- 4. 来賓祝辞
伝建にぎわい推進議員連盟 谷 公一 衆議院議員
文部科学省 伊藤 孝江 政務官
兵庫県 片山 安孝 副知事
- 5. 来賓紹介
- 6. 議事 議長 丹波篠山市 酒井市長
 - 第1号議案 令和4年度事業報告・決算報告
監査報告 (監事 南九州市 塗木市長)
 - 第2号議案 令和5年度事業計画・予算計画
⇒いずれも原案のとおり承認。報告事項
 - (1) 地区ブロックについて
 - (2) 令和4年度に開催したブロック研修会の報告について
 - (3) 令和5年度総会の開催地について (長野市 荻原市長より挨拶)
 - (4) 伝建制度創設50周年記念企画ワーキンググループについて
 - (5) 宮城県村田町への技術支援について (村田町 大沼町長より挨拶)
- 7. 閉会のことば 日南市 高橋 透 市長

II 講義1

題目：「重要伝統的建造物群保存地区の持続力の向上
に向けて」
講師：京都橘大学 村上 裕道 教授

伝建地区のこれからについて話され、「インバウンドや観光を考えれば『伝建』を世界ブランド化していくべき」との提案があった。



会場の様子



あいさつをする村山会長



歓迎のことばを述べる酒井市長



講義をされる村上教授

II 特別基調講演

講演：菅 義偉 前内閣総理大臣

「古民家再生は、地域の歴史や文化の保存継続、地方創生に極めて重要だと認識した」と話された。「文化財の保存から活用への転換に、より一層力を入れる必要がある」と強調し、丹波篠山の今後についても「大いに期待できる」とエールを送られた。



講演をされる菅前内閣総理大臣

III 首長サミット

コーディネーター：京都橘大学 村上 裕道 教授
パネリスト： 神戸市 久元 喜造 市長
豊岡市 関貫 久仁郎 市長
丹波篠山市 酒井 隆明 市長
養父市 米田 規子 教育長
たつの市 山本 実 市長



首長サミットの様子

それぞれの重伝建地区の現状や課題について意見交換。茅葺民家の維持補修について、職人育成の重要性や、茅確保のため他地域との連携の必要性なども指摘された。

IV 講義 2

題目：「重要伝統的建造物群保存地区の近未来と課題
ー少子高齢化時代の伝建地区ー」

講師：神戸大学名誉教授 黒田 龍二 氏

少子高齢化社会において、より一層伝建地区の居住者が減少、空洞化することによる様々な課題が出てくる。町並一体での管理においては、文化財単体での保存・管理がより重要となるといったことを話された。



講義をされる黒田教授

V 事例発表

| | | |
|---------|------------------------|--------|
| 発表者：金沢市 | 東山・ひがしの町並みと文化を守る会元会長 | 中村 驍 氏 |
| 長野市 | 戸隠中社・宝光社地区まちづくり協議会事務局長 | 辻 明紀 氏 |
| 丹波篠山市 | 篠山地区 篠山まちなみ保存会長 | 川端 登 氏 |
| 丹波篠山市 | 福住地区 福住まちなみ保存会長 | 森田 忠 氏 |

VII パネルディスカッション

題目：「保存地区の価値の磨き方」

コーディネーター：丹波篠山市農都環境政策官 清水 夏樹 氏

パネラー：上記発表者 4名



パネルディスカッションのようす

講評 文化庁文化財第二課 梅津 章子 主任調査官

伝建地区におけるまちなみ保存において、建物ひとつひとつが歴史の証人となり、それぞれに役割がある。まずは建物ひとつひとつを理解することが重要。その上で、抱える課題は共通であることから、伝建地区だけでなく周囲も含めて課題解決に取り組む必要がある、といったことを話された。



※各内容の詳細、講義資料

VIII 現地視察

篠山地区、福住地区ほか



*詳細につきましては、報告書（続報）にて後日お知らせします。